

展示室面積は2,000㎡超 県立クラスのスケール！

旭川市博物館 展示ガイド

商人であり、農民であり、職人であり
戦う人びともあった古代から近世のアイヌ、
先住の民アイヌの「新しい」歴史を学ぶ。

マンガ解説の一コマ



●交易の民 アイヌ

アイヌの活動圏は、11世紀にはサハリン、13世紀には大陸まで拡大。千島を北上して15世紀にはカムチャツカ半島に達します。グローバルな交易ネットワークを築いていた交易の民・アイヌの姿をご紹介します。

●中世から近世の住居

本州で竪穴住居から平地住居に移り変わると同時に、アイヌの住居も平地住居に。住居の中では、おばあさんが孫娘にアイヌの昔話を聞かせています。真っ暗ですが、足を一歩踏み出してみると、ホラ！

●アイヌの農耕

古代のアイヌは、畝立てした1千㎡以上もある大きな畑でアワやヒエなどの雑穀類を栽培。半農半獵の暮らしでした。

●古代の住居

北海道では13世紀頃まで竪穴住居が使われていましたが、本州でも寒い東北や信州では同時期まで竪穴住居が使われていました。住居の中には本州から輸入した様々な品物が。

●古代の鍛冶屋

北海道では7、8世紀以降、本州から鉄の道具を輸入していました。古代のアイヌの中には鉄の道具を再生する鍛冶屋もいました。

●古代のサケ漁

北海道の人びとがサケを大量に捕るようになったのは、10世紀以降。かなり最近のことです。それは干鮭(からさけ)が本州への交易品になったから。1戸あたり数千尾のサケを捕っていたと考えられます。

●中国の元の軍隊と戦うアイヌ

11世紀にサハリンに進出したアイヌ。13世紀にはその数も増え、地元の先住民と交易品をめぐるトラブルに。サハリンに政治的影響を及ぼしていた中国の元の王朝が差し向けた軍隊と戦争をおこなっていました。

●アイヌのリーダー

ロシアのコートと中国の衣服をまとったリーダーの姿です。交易の富を手にしたリーダーは多くの下層の人びとを従えカムイ(神)と呼ばれて神格化されていました。蠣崎波響「夷酋列像」をもとにイメージ造形しました。

●永寧寺碑文拓本

アムール川下流に中国の明の王朝が建てた石碑には、大陸に渡ってくるアイヌの姿が記録されています。中世アイヌの活動圏の大きさを実感してください。

●北方民族資料

旭川市博物館が誇る世界的にも有数のアイヌ資料(サハリン・大陸の先住民資料を含む)コレクションの一部を展示。大半は近現代に作られたものと思われるが、残念ながら収年など詳しいことは不明。

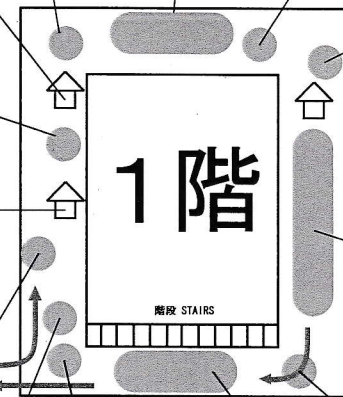
●知里幸恵コーナー

『アイヌ神謡集』をまとめる若くて亡くなった幸恵は旭川で育ちました。彼女の原稿の繊細な筆跡からはその人柄がうかがえます。

●今日のアイヌ文化コーナー

アイヌ文化は今も传承されていますか？博物館でよくたずねられる質問です。アイヌ語や手工芸など、伝統文化は今も脈々と受け継がれています。上川アイヌの伝承活動をご紹介します。

1階展示室 アイヌの歴史と文化



●上川アイヌの送り場

アイヌは、すべてのものに神が宿っていると考え、自分たちが使い終えたり殺めたものは、神の国に送り返していました。旭川でみつかった送り場では、クマの骨と赤ちゃんのおモチャがいっしょに送られていました。現代まで受け継がれるアイヌの精神世界をイメージ化してご紹介しています。

地下

上川の自然と歴史

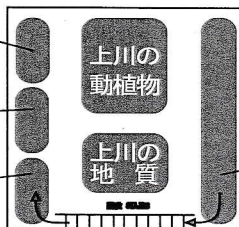
「上川」は旭川を含む上川盆地全体をさしています。

厳寒の大地に生きるものたち

アイヌ文化の資料

擦文文化
オホーツク文化の資料

旧石器文化
縄文文化
続縄文文化の資料



明治から昭和の歴史と文化

展示の背景とアイヌの歴史をさらに詳しく知る

- アイヌの歴史
・瀬川祐郎 2007『アイヌの歴史 海と宝のノマド』講談社選書メチエ
- 上川アイヌの歴史
・旭川市編 1997『新旭川市史 通史1』
- 元とアイヌの戦い
・中村和之 1999『北の『倭寇』状況とその拡大』『北の内外世界』山川出版社

マンガ解説の一コマ

